

3-4			
主題	新人用介護マニュアルの作成及びその活用方法と指導評価の統一について		
副題	人材育成の行き詰まり、衰退からの脱却		
人材育成		職員のスキルアップ	研究期間 6ヶ月
法人名	社会福祉法人恩賜財団東京同胞援護会		
事業所名	特別養護老人ホーム フジホーム		
発表者：船橋 奈菜（ふなばし なな）	アドバイザー：関根 純一郎		
共同研究者：長谷川 誠（はせがわ まこと）			
電 話	042-541-5985	F A X	042-541-5468
今回発表の事業所やサービスの紹介	特別養護老人ホーム フジホームは、昭島市の住宅地の中にある特養 100 床、SS4 床の施設です。また同施設内にデイサービス、デイホーム、居宅支援事業所を併設し、地域包括支援センターも所属しています。 「心に寄り添う介護」を目指し、利用者にとってより良い生活を提供します。		

《1. 研究前の状況と課題》

フジホームでは、平成 25 年からチューター制度を導入し、新人育成に取り組んできた。

チューター制度とは先輩職員を総合的な指導者、アドバイザーとして指名し、介護技術の指導だけでなく職場での円滑な人間関係を持てるよう対応するなど、その先輩職員と新人職員で信頼関係を結ぶことで新人職員の教育を行うものである。

しかし近年、採用した新人職員の定着率の低さがみられており、また採用時未経験である、指導側の各職員の介護技術の差などから、チューターを担う職員の指導スキルにもばらつきが見られるようになった。

そこでチューター担当経験のあるベテラン職員と入職一年前後の職員にアンケートを行い、指導について両者にどのような違いがあるかを調べた。アンケートの内容は指導方法、指導時の反省点、指導に対しての要望不満点と設問を設け、それぞれ選択肢を設定し集計

した。指導方法の設問で「見て覚える」と「チェックリストの使用」が多く、また要望不満点の設問で「マニュアルがなくて困った」「教え方にブレがある」が多かった。現状としてチューター各個人がチェックリストや評価表を作成、使用しており統一がなされていなかった。そのため、評価基準のあいまいさや、教え方のスキルの差、また一人前であるという判断基準の不統一が見られた一つの要因であると考えられる。

《2. 研究の目的ならびに仮説》

統一した指導基準、評価基準を作り、以下の効果を期待するものとする。

- ・介護技術や各スキルの向上。
- ・経験未経験を問わず新人職員の円滑なステップアップを図る。
- ・職員ごとの教え方のブレをなくす。

《3. 具体的な取り組みの内容》

1. 該当職員へのアンケートを実施、現状把握を行う。

2. 新人職員の年間スケジュールを設定、一年間でおおむね独り立ちできるよう、成果目標を設定。

3. 新人職員の成果目標達成に合わせた新しいチェックリストの作成

《内容》

- ・四大介護、業務概要、認知症介護技術、口腔ケア、衛生管理、危機管理、雑務について
- ・業務内容について備考と併せ具体的に明記。
- ・指導済みの日付等の記録欄の設定。
- ・成果目標に沿った評価期間を設け、振り返りによる意識の向上を図る。

4. 新人職員指導用チェックリストの合わせたチューター向けの指導マニュアルの作成

5. 上記作成のマニュアルの実践、評価

- ・入職一年目の職員を対象にチューターとのマニュアルを使用した評価を行い、見直しを行う。

《4. 取り組みの結果》

上記の取り組みを行ったことで、各業務のマニュアルの見直しとチェックシートを作成することができた。

職員への統一した指導の確立を目的とした取り組みであったが、抄録提出時までに実践とその評価をまとめる事ができなかったため、発表時にその評価と課題についてくわしく述べたい。

《5. 考察、まとめ》

今回の取り組みで介護マニュアルの整備及び指導方法の統一を図ることができた。今後はより実用に基づいた活用と継続できる仕組みの構築、そして個々に合わせた指導方法の確立が必要不可欠であると考え、継続した取り組みを行って行きたい。

《6. 倫理的配慮に関する事項》

なお、本研究発表を行うにあたり、該当職員にアンケート実施及び口頭にて確認を行い、本研究発表以外では使用しないこと、またそれにより不利益をこうむることはないことを説明し、回答を持って同意を得ることとした。

《7. 参考文献》

- (1) 社会福祉法人達真会・生活介護研究所 編集「暮らしを創る新人介護職実践マニュアル」2012年5月1日発行
- (2) 浜砂貴美子編著「スタッフ早期戦力化 介護手順チェックリスト」2004年6月10日発行
- (3) 橋本昌明監修「すぐ使える！新任介護職員 指導・育成マニュアル チューター制度虎の巻【改定版】」2013年4月10日発行

《8. 提案と発信》

今回、職員の技術向上を考えたマニュアルの作成を行い、統一されたサービスの提供は介護の質を高める良いきっかけになるだろうと考えられる。

しかし、統一されたサービスから一歩踏み出し、その利用者にあった「心に寄り添う介護」を行うことが、利用者のより良い介護の実現になるのではないだろうか。

作り上げた基礎から、利用者ひとりひとりに合わせることでできる多様性を今後は考えて行きたい。